



<Vol. 111 の記事>

記事 今、さいたまに必要なのは、こんなこと！ 連載 フレイバック20年⑧ 「ふらっと広場」の歩み

市のスポーツ政策に望むこと！

さいたま市にスポーツ文化局が発足！！

これまで、私たちのような地域スポーツクラブの担当は、教育委員会の体育課でした。体育課では、学校体育と生涯スポーツの両方を所管していました。市には、このほかにシティマラソンやさいたまシティカップなどのスポーツイベントや、スポーツのまちづくりに関する種々の事業を担当するスポーツ企画課がありました。

この4月に、市の組織改編があり、市民・スポーツ文化局／スポーツ文化部という新しい部ができて、この中にスポーツ企画課とスポーツ振興課ができました。これまで体育課で扱っていた生涯スポーツ振興やスポーツ施設（市立の体育館など）の管理についてはこちらで扱うことになったそうです。

国においても、スポーツについて一元的に扱うスポーツ庁の設置を望む声が多く出されています。

これまで、学校部活動が中心のように進められてきたスポーツ振興について、生涯スポーツ、健康づくりなどを含め、トータルに考えた施策展開がなされるようになることが、さいたま市においても期待されるところです。

何よりも場の確保！ 指導者の育成！

今、さいたま市のスポーツ振興で求められることは、どのようなことでしょうか。

私たちは20年間の活動をとらえて、より多くの仲間がスポーツを続けるためには、

- ・スポーツを楽しく安全に行える場（施設）
- ・スポーツの楽しさを伝えられる大人（指導者）

が不足していることを強く感じてきました。

■「スポーツをする場」は本当に足りないのか？！

クラブでは、テニスコートやサッカーグラウンドの確保に毎月頭を悩ませています。スポーツ広場も、体育館の予約がとれずに困っていることもあります。

首都圏の自治体では、スポーツ施設はどれも不足しがちだからしょうがない・・・と言われていますが、本当にそうなのでしょうか。

■「公共スポーツ施設を多くの人と使う工夫を」

市の体育館やサッカー場は、どこも予約でいっぱい、なかなか予約ができません。でも・・・利用の実態をみると、とても少ない人数で使われていたり、いつも同じメンバーが

使っていたり・・・。

広い施設であれば、複数の団体が調整をして、場所をわけあって使ったり、一緒に使ったりすることで、もっともっと多くの市民がスポーツを楽しめるようになるはずです。現在の1団体に1枠を貸し出す仕組みでは、これができません。施設が足りないのであれば、何か工夫をしなければ、新しくスポーツをやりたい方などが、はいる余地が生まれません。

サッカー関連の会員の皆様に

お知らせです！

クラブの20周年記念事業について
5月3日10時～ クラブ事務所で話し合いをします！

記念交流試合やイベントの企画、芝生のグラウンドづくりのことなど、みんなで意見交換しましょう！

誰でも歓迎！

お気軽にご参加ください！！



速報！！

U18 彩の国カップ 1回戦 1-0で勝利！

昨年再始動したU18（高校生年代）。さいたま市、川口市や上尾市から通っている3年生8人、2年生3人、1年生2人の総勢13名が参加しています。

今年は、「彩の国カップ」に参加できました！

1回戦、ACアルマレッザ（前：飯能ブルーダーSV）U18 チームと対戦し、見事1-0で勝利！ ^^！

日時 4月18日 17時キックオフ

場所 飯能市美杉台グラウンド

結果 浦和 SC 1-0 AC アルマレッザ

攻めこまれる時間が多く、後半には足がつる選手が数名出る苦しい展開でしたが、集中力を切らさず、前半に入れた1点をみんなで守り切りました。

2回戦は REDS ユースと対戦です！



■「学校施設は地域の財産の視点から活用しよう」

日本国内のスポーツ施設の7割が学校施設にあるというデータがあります。土地価格が高く、新たなスポーツ施設を整備するのが難しい首都圏では、なおさらのこと学校の施設をもっと上手に使うことが必要です。

もちろん、授業に支障が出るようなことがあってはいけません。それさえ気をつければ、地域住民がもっともっと使えるようにできるに違いありません。

地域の絆、多年代のふれあいなどが失われがちな昨今ですが、このような点から地域と共存することで、交流が生まれ、子どもたちにとって良い効果を生むと考えます。子どもたちを応援・支援する環もさらに広がるのではないのでしょうか。

全国的にみれば、石川県かほく市の宇ノ気中学校や愛知県半田市の成岩（ならわ）中など、社会体育施設と学校施設を融合した施設を整備し、昼間から施設の中で地域住民が活動し、子どもたちと挨拶を交わす姿が見られます。

子どもたちを地域で育てることを、まさに、実践されていることがわかります。さいたま市でも、そのような姿が見られるようになれば、どんなに良いことでしょうか。

■「芝生を増やそう！」

芝生は維持管理が大変だから・・・という言葉をよくききます。維持管理が大変だからといって、子どもたちが怪我をしやすい土やダスト舗装の校庭でいいのでしょうか？

土のグラウンドで過ごしているうちは、サッカーもラグビーも、欧州や豪州にかなわないまとも言われます。子どもたちの可能性を引き出す芝生の効能よりも、目先の維持管理の手間が判断基準になっているのは悲しいことです。

さいたま市では、芝生のグラウンドや園庭を増やすことを重点プロジェクトにしていますが、まだあまり進んでいないようです。

右の写真は、静岡県磐田市のHPから引用させていただいたものです。

このように国内各地では、校庭の芝生化の取り組みが進められています。

さいたま市でも、先人たちの話をきき、できることからすぐに取り組んでいくことを期待します。



■「スポーツの楽しさを伝えられる大人」の育成を！

スポーツの楽しさ・・・これは人によってとらえ方が異なるようです。

「試合で勝つこと」が全てに勝つという考えの方もいます。

「仲間と汗をかいて楽しむこと」を目的としている方もいます。大人になれば、それぞれ自分で選択して、自分の意向にあった活動を探せば良いと思いますが、子どもたちには、その選択肢があまりありません。自分で選ぶということも、なかなかできないのが現実です。

■「子どもたちの指導の基本的な考え方を共有しよう」

「小さい時には、いろいろな運動をさせた方が良い」「子どもを罵倒してはいけない」という話しは、ずいぶん前から指摘されていますが、実際にはどうでしょうか。

たくさんの種類のスポーツ教室に子どもを通わせることは、難しいことです。それぞれのクラブや教室の中で、スポーツ指導者にも保護者にも、その大切さをもっともっと意識してもらえるとよいと思います。

また、活動の中での指導者や保護者の子どもたちへの接し方も非常に大切です。大人にとってはたいしたことのない言

葉でも、子どもたちが傷ついたり、スポーツを続けたくなくなってしまうことも少なくないようです。

スポーツに対する基本的な考え方・・・共通した意識・・・まさにスポーツ文化を育むために、指導者や保護者向けの啓発事業などが実施されることを望みます。

■「中学校の部活動の必修をやめよう！」

市内の中学校は、学校によって部活動への参加が必須になっているところとそうでないところがあるようです。

自分にあった活動ができる地域のクラブなどに入りたくても、学校部活動に参加しなければならないために、クラブへの参加を断念したり、大きな時間的制約を受ける場合も少なくありません。

子どもたちの選択をせねばないために、このような学校によって違う対応である現状が改められることを望みます。

プレイバック浦スポ⑧ ふらっと広場

北浦和西口サティの北側にある“ふらっと広場”は、学生マンション（フラット常盤）のオーナーである埼玉工業さんが、1Fのセミナールームを地域に役立つように活用したいというご希望をお持ちであることを聞き、クラブから提案を持ち込み2007年に実現したものです。

午前中をクラブのフィットネスプログラムで使わせていただき、午後は地域みんなの交流の場所（主に、子どもたちの放課後対策になっています）として運営することにしました。

その年の「さいたま市市民提案型協働モデル事業」に採択され、この委託費により、カーペットやウレタンマットなど、子どもたちが安心して遊べるように施設整備を進めることができたことも幸運でした。

部屋の賃料は無料にさせていただき、運営管理にかかる人件費や光熱費、用具費などをクラブから出しています。フィットネスプログラムに参加される皆さんの会費で、運営されている（モデル事業は07年のみで、現在は助成や補助金はいただいていません）全国的にも珍しい取り組みと言えるのではないのでしょうか。

現在も、10～20人ほどの子ども達が、遊びにきたり、友達とおしゃべりをしにきたりしています。

より安定した運営を実現するために、フィットネスプログラムの会員を増やすことが必要です。やや目立たない場所にあるため、まだまだ知られていないようですので、お友達に紹介していただくなど、皆さんの力もお貸しください！



2010年度も、浦和スポーツクラブでは、総合型地域スポーツクラブ活動助成を受けて活動しています。